

---

**テスト投下 仮面ライダーディケイド×舞乙HIME**

キラ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

テスト投下 仮面ライダーディケイド×舞-乙HIME

### 【Nコード】

N9739N

### 【作者名】

キラ

### 【あらすじ】

これはいわば嘘予告みたいなものです。読者の皆様の要望が多ければ、連載を始めるかもしれません。

「…新しい世界か」

いつものようにスクリーンの絵が変わったのを見て、門矢士は小さくつぶやく。

「今度はどんな世界なんでしょうか」

「いつもながらよくわかんない絵だな。赤い星と……小さくてよく見えないけど、あれは女の子かな？なんで空を飛んでるんだ？」

光夏海と小野寺ユウスケは、首をかしげてスクリーンの絵の内容について思考を巡らせている。…といっても、絵の意味は大抵その世界での旅を終えた時によろやく掴めるものなのだが。

「どつやらライダーの世界ではないようだけど、ここにも何かお宝がありそうだね」

にやりと笑いながらそう言うのは海東大樹だ。今回も、彼は世界の価値あるものを探すつもりらしい。

「またコソ泥か、お前も飽きないな……まあいい、とりあえず外に出るぞ」

海東を呆れたように見ると、そのまま土は写真館の外に出ていった。

「あれ、土君は？今コーヒーを用意しようと思ったんだけどなあ」

土と入れ違いにスクリーンのある部屋に入ってきたのは、写真館の主・光栄次郎だ。

「おじいちゃん、私達も出かけますから、コーヒーは帰ってきた時に淹れてください」

そう言い残して夏海は土を追って玄関に向かい、ユウスケと海東もそれに従う。

「いつてらっしゃーい？」

栄次郎の近くを飛び回っていたキバーラの言葉を聞きながら、3人は外へ出た。

「……へえ、何だか変わった街並みですね」

「向こうには城も見えないし、一昔前の西洋の風景のようだ」

今まで旅してきた世界とは一風違った街の雰囲気に関心を持つ夏海と海東。ユウスケはというと、ずっと周りをきよるきよるしている。

「……………あれ？土は？」

その一言で、残りの2人もあることに気づく。

先に出たはずの土の姿が見えないのだ。写真館をでた時間の差は30秒あるかないか。そう遠くに行けるとは考えられない。

4

「どこに行ったんでしょう、土君」

「……………」

夏海が心配そうに辺りを眺めるが、土の姿は見えない。海東の方はさほど心配してはいないのか、特に表情も変えずに城を眺めている。お宝がありそうなところに目星をつけているのだらう。

「おーい、土！」

ユウスケが大声で土の名前を呼んだとき。

「……お前ら、一体なにをやっているんだ。俺ならさっきからずっとここにいます」

そんな返事が返ってきた。……だが、その場の全員が困惑する。

なぜなら、土のしゃべり方で言葉を発したのは

「……おい、なんで俺の声はこんなに高いんだ？ついでになんて背が低くなっているんだ？」

見た目14歳くらいの、ツインテールの少女だったのだから。

「……え？ひよ、ひよっとして、土？なんでそんな姿に……？」

「そんな姿になって、今の俺は一体どういう状態なんだ」

絶句するユウスケを見てそう返す土。手足が細くなっていることはわかるのだが、顔は当然見ることができないのだ。

「……これは、おもしろいことになってきたね。土、窓に向かって立ってみたまえ」

近くのショーウィンドウを指差し、ほくそ笑む海東。その表情に少しむっとしながら、土は言われたとおりに動いた。

すると、目に入ってきたのは明らかに自分ではない少女が不機嫌そうな顔をしている姿。

「……………」

「あ、あの……土君？」

しばらくの間動かない土に、恐る恐る声をかける夏海。いくら土とはいえ、いきなり女の子になってしまった衝撃はやはり大きかったのか。

「……………さすがは俺だな。女になってもこの美貌だ」

「ってうぬぼれてたのかよ!!」

うっとり窓の向こうの自分を見つめる土に、ユウスケが全力でツッコんだ。

「……………ん？ポケットの中に何か入ってるぞ」

魂のツッコミはスルーして、ポケットの中身を取り出す土。

「……………地図みたいですね」

横からそれを覗き込んでいる夏海がつぶやいたとおり、土が取り出したのは様々な情報が詰め込まれた地図だった。そして土は、ある場所に赤丸の印が入っているのを見つけた。

「オトメ養成専門学校『ガルデローベ』……………?」

そして、この世界でのディケイドの物語が始まる。



「ふん、弱いな。出直してこい」

「ちょっと、あの編入生強すぎでしょ!?!」

「……あなた、何者どすえ?」

「通りすがりの美しきオトメですよ」

様々な人物と出会う中、土はこの世界を渦巻く陰謀へと向かっていく。

「奇襲か。……まさかオトメの能力を封じられるとはな。だが、俺はそれだけじゃやられないぜ」

「あれが、世界の破壊者、ディケイド……」

そして、現れる大組織『アルティメットシヨッカー』。ついに明らかされる、鳴滝の正体とは。

「ディケイド、今度こそお前を地獄に送ってやる!」

「…悪いが、お前にだけは負けられないな」

『オトメ』が存在する世界で始まる、ディケイド最大の戦い。

仮面ライダーディケイド×舞-乙HIME 〈絆〉

心と心の繋がりには、決して消えない。たとえそれが、記憶の彼方に消えようとも。

(後書き)

はじめましての方ははじめまして、そうでない方はおはこんばんにちは。キラと申します。今回は僕の下手な文章に付き合ってください、本当にありがとうございます。

いかがだったでしょうか。何となく思いついたネタなんですけど……今更デイクイド?というか舞ー乙HIMEってなに?とかいう声が聞こえてきそうです。

でも、もし「続きが読みたい」と思ってくださいました方がいらっしやれば、感想でお知らせくださるとありがたいです。ひよっとしたら連載始めるかもしれません。今は他作品やポケモンやってて手がつけられないですが。

では、さようなら。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9739n/>

---

テスト投下 仮面ライダーディケイド×舞-乙HIME

2010年10月9日16時12分発行